

事業名	色調に優れたワカメ新品種開発
予算区分	地方創生交付金(気候変動に打ち克つ農林水産適応技術開発プロジェクト)
事業実施期間	令和元～3年度
担当者	(環境増養殖担当) 笠井謙太郎, 加藤慎治
共同研究機関等	
<p><目的></p> <p>気候変動や色落ちにより生産不振となっているワカメ養殖業において、環境変化に適応し色落ちに強い品種開発を目的とした。</p> <p><方法></p> <p>令和2年度の養殖試験の結果から、色調に優れるがあまり生長しなかったO株(三陸系)及び最も生長が良かったが色調で劣るG株(県内産)を用いて、交配による優良株の作出を試みた。</p> <p>試験にはO株、G株、それらを交配したもの(G♀O♂、O♀G♂)及び対照として鳴門地区で通常養殖されているF株を用い、常法による種苗生産の後、令和2年12月23日から令和3年3月18日まで、水産研究課鳴門庁舎地先海面で養殖試験を行った。</p> <p>養殖期間中は概ね2週間間隔でサンプリングを行い、葉長、葉重を測定するとともに、2月中旬以降は藻体を開けた穴の移動距離から日間生長率を求めた。また、試験終了時には藻体の色調を判断する指標としてSPAD値を測定した。</p> <p><結果></p> <p>葉長は2月下旬まではF株及びG株が大きかったものの、試験終了時にはすべての株間で大きな差は見られなかった。葉重は期間を通じてF株が最も重く、G株が最も小さかった。令和2年度漁期は例年に比べ海域の水温が高く、年明け以降は栄養塩濃度が著しく低い状況であったため、全体的に藻体が小さく株間の差が出にくかったと思われる。</p> <p>藻体を開けた穴の移動距離から求めた日間生長率についても、2月中旬は4～5%程度であったものの、3月にはほとんどの株で2%以下となり、低栄養塩が生長にも悪影響を及ぼしたものと考えられた。</p> <p>試験終了時のSPAD値についても概ね6～7程度と著しく色落ちしており、株間でも大きな差は見られなかった。</p> <p><今後の課題></p> <p>漁場環境が非常に悪い状態が続いたため、期待された株ごとの特性の違いを引き出すことができなかった。用いる株や養殖手法等を改善した上であらためて色調に優れた養殖品種の作出に取り組む必要がある。</p> <p><次年度の計画></p> <p>引き続き色調に優れた品種開発を進める。</p> <p><結果の発表・活用状況等></p> <p>特になし</p>	

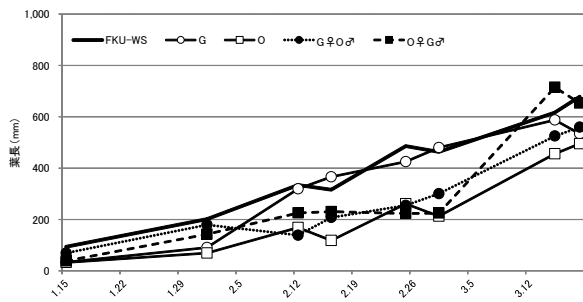


図1. 試験期間中の葉長の推移

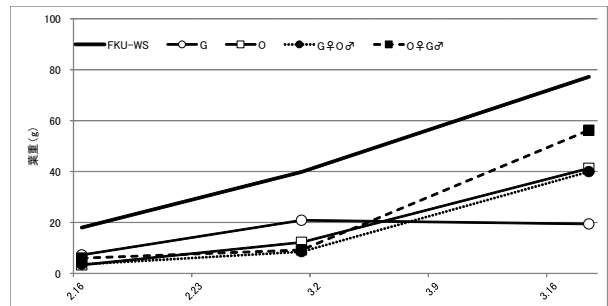


図2. 試験期間中の葉重の推移

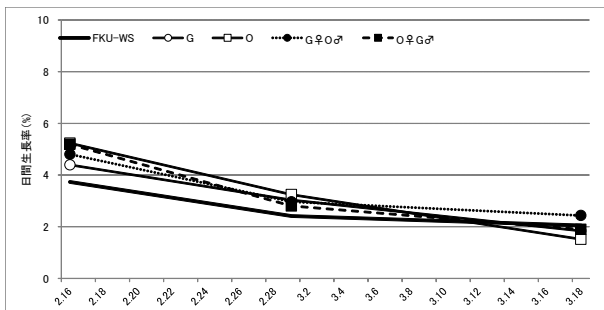


図3. 試験期間中の日間生長率の推移

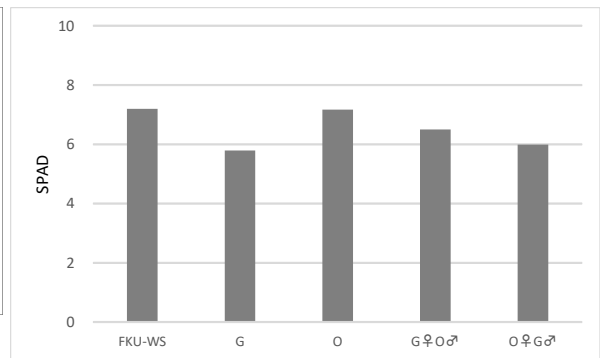


図4. 試験終了時の各株のSPAD値